

百世らぎ

文化協会報

第7号

発行 平成2年12月10日
東部町文化協会
印刷 板橋印刷所



東部町文化会館



(写真)



(木彫)



(人形)



(絵画)



(籐手芸)



(華道)

文化活動と学習ボランティア

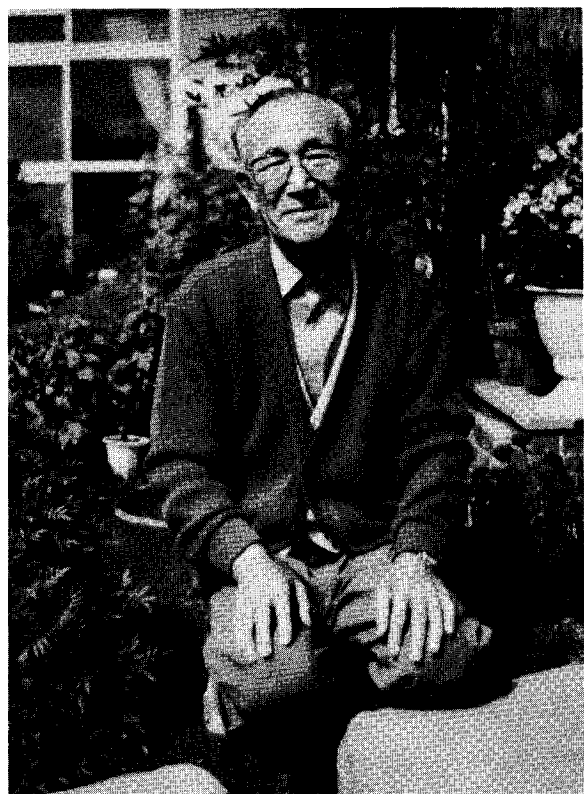
社会教育委員

小山定雄

中央教育審議会は「地域社会と文化について」答申し、「心の豊かさ」を求める国民のニーズの高まりに対して、文化行政を国民の生活レベルで拡充することを提言しています。それ以来「文化の時代」という言葉は広く口にされる様になってきたと同時に「物の豊かさ」よりも「心の豊かさ」という考えが広まって参りました。総理府の「国民生活に関する世論調査」によると「心の豊かさ」と物の豊かさのどちらを重視するか」の質問に対して「心の豊かさ」を重視する割合が非常に大きなウエイトを占め、同じく「文化に関する世論調査」や「生涯学習に関する調査」によると、文化活動や学習活動へのニーズと参加希望は非常に大きな数を示しています。わが東部町文化協会の会員として文化活動や学習活動に参加されている方は二千人になんんとしております。そして東部町の第三次計画では「魅力ある生活文化を共に創る」と掲げ、「地域に根ざした自主的活動の助長を図る」ことに力を入れております。さて今、「文化の時代」に應じて求められているのは、芸術文化の振興や文化財の保存は勿論であるが、私たちの毎日の生活の中で人々の心を豊かにし、毎日の暮らしに「はりあい」「生きがい」を持ち、人間らしさの取りもどしや完成が出来るところの暮らし方のスタイルを、新しく創ってゆく事が「文化の時代」という言葉の中にあるのではない

でしょうか。表面的な又は効率的な人との結びつきや関係ではなくて、人々の心を暖め、心の交流する「ふれあい」との関係の文化ではないでしょうか。それは文化活動や学習活動を通して「出会う」人々との関係であります。個人個々の活動でも、好きな仲間（グループ・サークル）の活動で、心の中に生み出された「感動」や「よろこび」は、一人一人のものであります。それをより一層深く大きな「感動」や「よろこび」をうるために自分だけじゃまっておくのではなく、それを他者（友だち・近隣の人・地区の人達）と共有するところに、その「よろこび」は一層倍加するものと思えます。即ち自分が文化活動や学習活動を通

して体得（体験）したものを「おすそわけ」（外部に表現する。地域還元）をしてやることです。この事によって人からよこばれ、感謝され、又自分の今後の新しく創り出してゆく考えや、作品の創作に一層の示唆に富んだ助言も得られます。その上に人と人との間に「暖かさ」が広がってゆきます。この様に新しいものを創り出したのを外部に表現しなければ文化は具象化されません。人々にその価値を認められ、「よろこび」を共有することが又、次への創造の源となり、更にその「文化」を保持してゆくためには他の人との連携や協力なしには成立しないと思えます。文化・学習活動をなされる皆さま、自分一人だけで

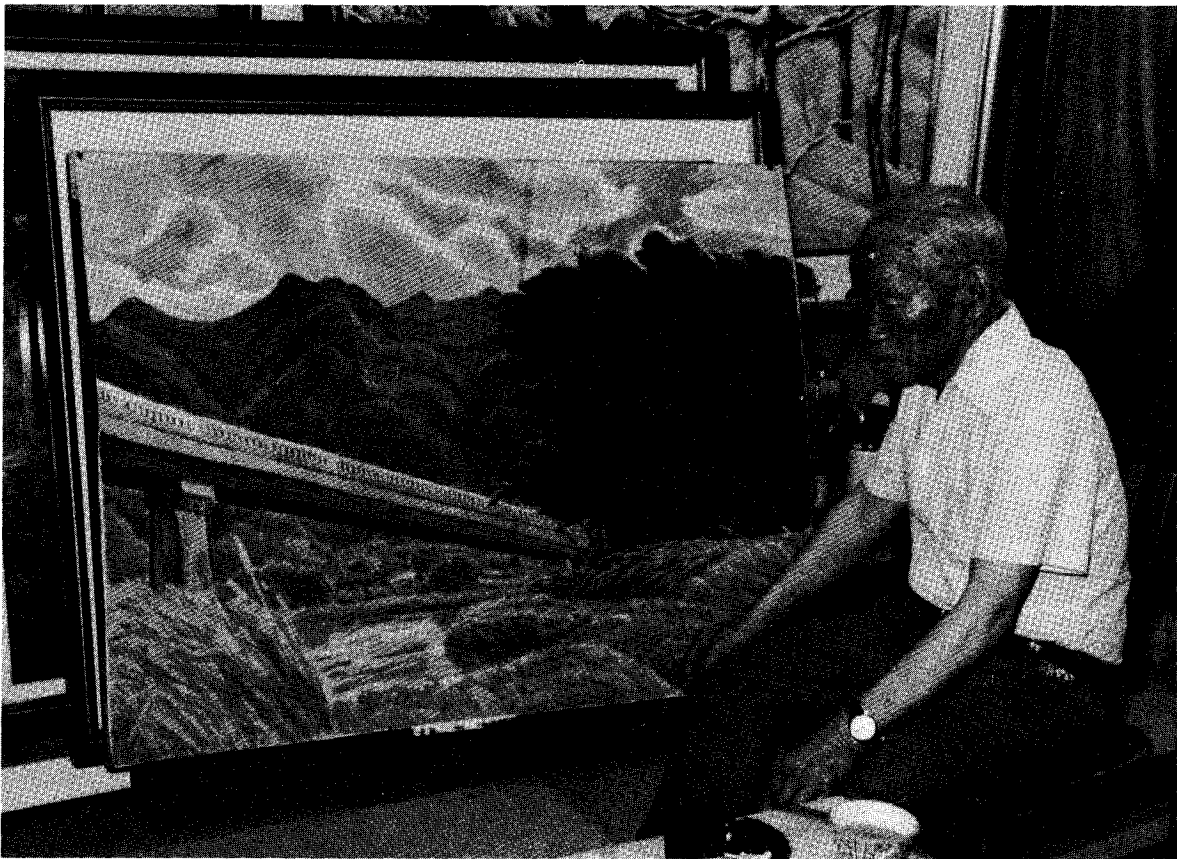


なく、又グループだけでなか、その「感動」「よろこび」の持てる力を「地域還元活動」に奉仕をしていただきたいものです。生涯学習でいうところの「学習ボラ

ンティア」であります。それは町民の人間性や知識・技能などの向上を目指す生涯にわたる文化活動・学習活動の指導や助言・援助することであり、細かく言へば知識を増すことや、考えることや、創造することなどの活動体験をすることによって思考力・判断力・記憶力を高め、人の心や美についての感受性を磨くこと、心身の健康増進、課題達成の意志を高めることなどがあります。したがって「学習ボランティア」はボランティア精神を持って生涯にわたる学習を援助する人であり、そしてこれらの出来る分野・内容として、〔一〕自宅や近隣で出来ること。①得意なものを教える活動、②地域の子どもに対する世話や指導、〔二〕地域の中で出来ること。①青少年団体に得意な事を教える活動、②高齢者の生きがい援助、③地域や各種団体の世話役・委員になる、④地域に各種グループをつくる活動、⑤学習に関する情報を提供する活動、〔三〕各施設で出来ることなどであり、この様に私達は、老若男女すべての人々が、今迄の、又今実践している文化経験の有無に関係なくあらゆる教育の資源を利用し、自分の生き方を見直しながら生涯にわたって人間完成への努力を支援する生涯学習と一体化してこそ「ふれあい」がわが東部町の文化を一層発展させるものではないでしょうか。

この様なこともあった

東部町美術会会長 寺島長虎



昭和四十八年の秋季かと思えます。役場

へ集るようという通知に接したので行って見ると、文化に関係のある人、或はそのことに実績をのこして来ている方々が集って居りました。役場の係は小山博正さんだったと記憶しています。文化の方面のお話やその組織などについて詳しくお話がありました。二年前前に県に文化課が設けられ信州美術会の大きな仕事の県展がその文化課の中に含まれることになったことを知ったので、何らかの関連があるのではなからうかと思わせられました。

この当時東部町内の各区の模様を見ますと、絵画、農民美術の木彫、又生け花、詩吟をはじめ歌謡曲や民謡等々三十余の区でそれぞれ行われて居り、まだ初めの段階のものもあり相当熱心に行われている区や地区もあり、絵画などは東部町美術会として二十年を越え毎年展覧会などをやり、平生苦心の作の発表もしています。絵の場合「そんなものなくてもよいではないか」という意見もありました。絵画の場合一万円位の助成を町から頂いた事も在りました。こうした文化協会のお話により町から申しかけられたけれども、その下地をなすものの受け入れ態勢は大なり小なりにあったと十分考えられました。

かくして文化協会が結成されて役員の件に及び会長、副会長男女一名皆で三名が定

められた。不肖私が会長に選ばれたことは全く意外のことでした。

それで先ずこの活動を成長させる町内実情を考える時「先ず第一に金である」と気が付きました。私は以前称津小学校に奉職、学校の施設その他の件で村長と接触話合うことは度々でした。

百瀬さんとも——(当時村長ではなかった)——そのような機会があり百瀬さんは数字に明るくこういう方面に力量の高い方だと知りました。この文化協会の問題も資金に困って居るものも相当ある故、先ず最初の二・三年は若干の助成金の交付をしてもらうことは絶対に必要だと考えました。

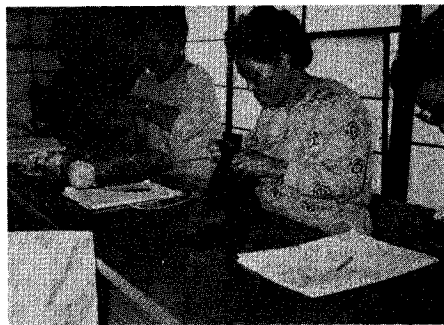
百瀬町長の御意見は「そういう趣味に類する事柄を行うにはその負担は各自が分担すべきものである」ということでした。私は先ずこの仕事のスタートゆえ、若干の援助を二・三年与えてこれを盛んにすることはやはり文化の鼓舞に価することだという訳で文化協会から出した予算即五十万円は蹴散らされてしまった。他の関係もからんだといわれたが、結果から言って胸中の怒りをどうすることも出来ず、又会員にも会わせる顔もなく遂に正副会長三名の辞表を提出しました。

後任に小林進氏が選ばれ着実に任務を果されました。現在一五〇グループ、会員一八二〇名に達しています。かくして一五年を過ぎ、昨年丸山光夫氏が会長となり潑刺たる息吹きが地底から鳴りひびいて来るような気がします。

私はこの会の自分をふり返り「忍」の一事の大切を思っております。

グループ紹介

町内には、文化活動をしているグループは百五十グループあります。各グループそれぞれ積極的に活動しています。あなたも何か趣味を持ってエンジョイしてみませんか。グループについての問い合わせは、文化協会事務局へ（電話六二一一二一内線五二五、有線二〇七一―一三）



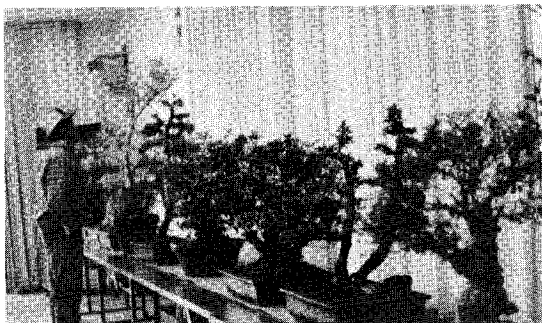
すみれ会
山野 智子

私達手芸すみれ会は、昨年四月町の教養講座に申し込みをし、初めて知り合ったグループで年令はまちまちですが、同じ目的で集まった人同志すぐに打ちとけ、和気あいあいと楽しく二年目を迎えて居ります。最初は編物の基礎を勉強し、ベスト、模様編セーター、カーディガン、自由教材、合間にサイコロバック小物入、袋物、ブローチ等次々と素晴らしい作品を教えて頂き、今年の二月卒業展示会には町の皆様に見て戴きました。現在は十四名で、第一第三金曜日の午後中央公民館で行っています。少しは上達し、先生が着てみえるむずかしい模様編セーターを見ては、これが良いあれが良いと挑戦、又色々なデザインの割烹着、編物は原型ゲージをとり仕上げるのです。それぞれ自分にびったり良く似合う一枚ずつ増す作品も、日増しに上手になり皆で喜んで励んで居ります。

加沢盆栽会の活動について

- (一)、年一回の定例総会。一月実施
 - (二)、盆栽技術講習会。講習会は毎年二月の農閑期に三日から五日間行われ地元金の井侑氏が講師として熱心に指導してくれる。
 - (三)、作品発表会。展示会は五月に行われ、日頃丹精した会員の作品が公民館に展示される会としての一大行事である。
 - (四)、先進地視察旅行。旅行は毎年実施され国風展や埼玉方面の盆栽市場等へ慰安を兼ねて行われ会員の楽しみの行事である。
- 加沢盆栽会は昭和四十五年に創立発足して以来、折りからのブームもあって一時期は百名近い会員を数えた。現在は五十名程に減少したが特筆すべきは婦人の会員が増えて熱心に勉強していることである。

この会が高尚な趣味の会として益々発展することを望みます。



加沢盆栽会
竹村 政次



コールエコー
青木 規子

「歌いたい」との思いが、皆の胸の中でふくらんだころ、竹内爾恵子さんの呼びかけで集合したのは一年半前。長く合唱から遠ざかっていた人がほとんどですが、白石先生のウイットに富んだお話しと、山丸先生のウットりするピアノ伴奏。時にはペアを組んでワルツを踊り、腹筋運動で発声を、と楽しい練習もあり、気軽に肩の凝らない歌を歌ってゆきたいと思っっています。



双葉民踊クラブ
高野 恵美子

私達のクラブは去年からの念願である踊りを習いたいと言う思いを、やっと実行に移したのが今年の初めです。月に二度の練習日には老人クラブ会員のいこいの場としても、又手作りのお茶うけを持ち寄り話し合いの場にもして居ります。外からの先生はお願いせずに一日の長として老人大学のクラブで教わった深山流の師範上原よし子先生に教えて頂いた踊りを、皆さんと共に習って居ります。男踊りです。美しく若々しく老いる為に、又見る人に心からの感動をして頂ける様な踊りを目指して、楽しい輪を広げようと願って居ります。先輩の皆様よろしくお願い致します。



BETTY CLUB

井上祐一

私たちは、現在十二名で英会話のサークルをつくり、オーストラリア人の先生を招いて、週一回、生の英語に接し英会話の学習を楽しんでおります。

ほとんどの人が、英語の読み書きは学生の頃勉強しておりましたが、実際使われる英会話については、まったくはじめてで、最初は中学生レベルの英語からやり始めているといった内容でした。しかし、最近では、レベルも向上し雑談等も英語でできるようにまでなっております。

英会話を上達させるには、恥ずかしがらずに話す事が重要で、習うより慣れろと言うように外国人に慣れる事が肝心だと思つてメンバーの人たちは、週一回の英会話をほとんど休まず参加するといった意気込みです。いつの日か、この英会話が日常生活・仕事で役立つ日が来ることを期待します。

私達仲間、三年前町公民館の生涯学習
教養講座水墨画教室の受講者です。

初回の講座で先生が「皆さんは、どんな考えて水墨画を習いたいと思いましたが？」と聞かれて、「墨のもつ濃淡の、なんともいえない魅力に感じ、表現できれば」と大勢が答えていたことを思い出します。

らん、菊、竹、梅、と基礎を習得して、講座卒業後、十一名（女性八名、男性三名）で、水墨友の会と名付け、栗田先生に師事して、毎月二回の例会で休むことなく楽しみに続けて、三年になります。

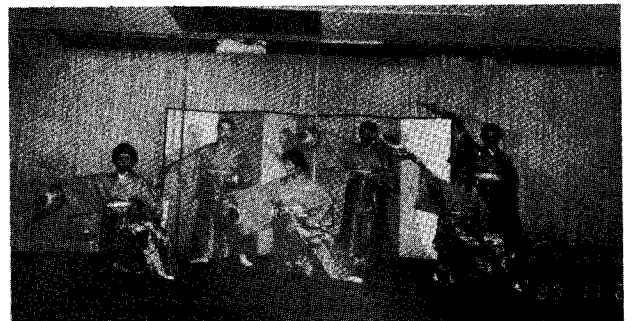
例会は、必ず作品を持ちよって、ミニ展を開き、先生の指導を仰ぎます。

いまは、山水画の長尺を描き続けていますが、水墨画の仲間と語らい、生涯続けて、生きたるしに、残せるものを、と例会を楽しみに勉強を続けるグループです。



水墨友の会

清水和



詩吟 柴田善亮

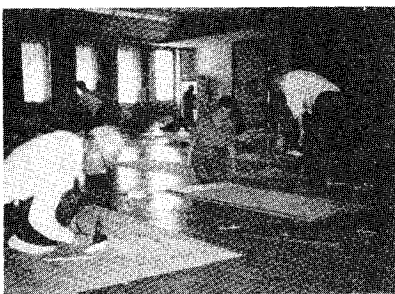
五年程前から、表具の課程を習い、自分の作品づくりをしてみたいと思っていました。たまたま、昨年公民館の教養講座の表具教室に仲間入りをさせて頂き、小林善信先生に一年間お世話になりました。

柱掛、茶掛、本軸と課程が進み、作品ごとにその工程が難しくなり一年間だけでは作品も出来そうもないので、グループの皆さんに話しかけたところ大半の人達が、二年目を希望し、現在実習を続けております。

グループは十人で、うち六人が女性、残り四人が男性です。女性の皆さんは、手先が器用で一日の工程を手早に済ませるのに、男性は慣れない手つきでやっとなつてゆきます。

その日の実習が終わると、先生を囲んでお茶を飲みながらの反省会に移り、難しかった点、失敗したこと、次回の工程等が話し合われ、緊張した半日の実習時間がここでいっぺんに解放され楽しい勉強会となります。

全く知らなかった人達が一つの作品を造ることによって、お互いに親しくなり人と人の和が広がり回を重ねることに楽しい表具教室であります。



表具グループ 平成会

柳沢清男

詩吟部会は、三会派、長野明光会海野支部、岳照流日本誠吟会、聖風流東部吟道会の総勢、百九十余名の会員を以て活動し、それぞれの会派の中で、長野県予選大会、中部地区大会、全国大会、六十八才以上のダイヤモンド甲信越吟詠コンクール、等に出場の為研鑽を積んで居り、剣詩舞研修会、県文芸協芸術文化祭総合フェスティバル大会等に出場し、文化交流の役割をはたして居ります。町内に於いても各派地区温習大会は最低年一回は持ち、各派の交流を深め同好の同志として、「詩は志也」。詩は志を言い、「詩は志のゆく所なり」心に在るを志と言ひ、言に発するを詩となす、を以つて。心静かに、清らかに、詩情を心身で悟り吟じ行く。自ら心豊かな人格の向上に努めて居ります。

謹言不一。



かぼちやの会 星 合 三 佐 子

母親文庫の仲間が集まり、子供達に郷土の民話を伝えていこうと、「かぼちやの会」が発足しました。その方法として、ジャンボ紙芝居を制作しています。記念すべき第一作目は郷土の名力士「雷電」にしました。出来るだけ史実に忠実にしたいと思い、地元の諸先生方にお話しをお聞きして、文章作りも全員で検討しました。絵は会員の中学生を中心に下絵を書き、それを拡大し二十枚程のジャンボ紙芝居になりました。色付けは夏休み、土曜日などを選び全員で大掛かりな作業でした。そしてこの作品も後わずかで完成です。多勢の子供達の前で発表できる日を楽しみに、残りの作業に取り組んでいます。仕事を持つ者、地域の役員を務めるものと多忙の中での月一度の例会も、全員が集まれないことも度々ありますが、今は次回の作品に夢を馳せています。

「木友会」は男性八人、女性四人の木彫クラブです。メンバーは昨年の教養講座卒業生、十年選手、最多の四年目の人達で、年令も三十代から八十代までの巾の広さです。

何事によらず創作するという事は難しく根気を要求されますが、自分の手で創り上げた喜びに勝るものはありません。彫りながら色付けへと近喰先生にご指導いただきながら、作品の完成を目指し励んでいます。またグループの親睦を兼ね、野外学習にも出掛けます。小布施の北斎館、岩松院見学では、北斎の情熱に皆感動しました。今秋は佐久方面の美術館にて絵画観賞を予定しており、楽しみです。

木彫りに魅かれ、木彫りを共通の趣味として知り会えた「木友会」で、これからもいろいろな物に挑戦したいと思っています。



木友会 浅 倉 陽 子



かわせみ短歌会 関 義 豊

公民館の講座を経ての会です。かわせみの如く鋭さを求めた歌を作りたいと思う。講師は藤沢幸江さん、「原型」、「土笛」

の幹部として活躍の中ご指導をいただいています。長野県は短歌人口が増え多くの短歌結社があり頼もしい限りです。我がかわせみ短歌会も結社の姉妹会として小さい乍も全員県の歌人連盟に入会めざして実力をつけたいと思う。春秋吟行会各大会へ投稿他会との交歓等夢を大きくもっています。本年は一号の歌集を発刊し一年一回を予定中です。お互いに忙しい生活の中働き乍の会員です。歌は新旧仮名文語口語の制約はなし、毎月の例会は入会、休会、自由です。

ひとりの天才を生むより多くの会員の絆を大切に、我が町に歌人を増やし、合同の短詩型文学祭を行うことを望みます。

教養講座で柳沢先生に指導して頂いて今年で七年になりました。気兼ねのないグループで、先生もお友達の様な気持ちで接して本当に楽しく参加させて頂いて居ます。むずかしい風景も仕上がった時の嬉しさは言葉にあらわせません。家中作品でいっぱいです。一つずつ増える絵に其の時の事などが思い出されます。毎年松本で開かれるIAC美術展に二教室三〇点余り出品しました。全国から多数集まりましたが、工芸部門でちぎり絵が二点、賞を受けました。本当に夢の様でした。

染色も教えていただいたので、道端の花や草も摘んで来て染めて見ますが思う色には染まりません。そんな時は先生の御苦労がしのべれます。

赤い花を染めても赤く染まる訳ではないのですから、一枚の和紙を幾度もくぐねたり、ホーレン草や野沢菜も染めるそうです。まだまだ元気で皆で頑張ります。よろしく。



柳生会 高 橋 ツ イ

趣味に生きる

柵津の柳橋 透さん



広い邸内の庭木に目を移しながら、お邪魔した柳橋さんのお宅。沢山の蔵書に囲まれた一室で、まず、定津院の筆頭総代を務められる柳橋さんから、信濃五山の一つに数えられる定津院は開山以来五百三十年を迎えるという。お寺さんは昔より、地域の文化の拠点であったし、衆生済度の使命があったが現在は事情が変わってきているとお話です。価値観や人生観、生活様式が段々変わりゆく中で、文化活動とは、新しいこと、創造ばかりでなく、顧みられなくなったものを掘り起こすことも文化の大切な一面である。貴重な古文書なども価値を知らなければ襖や屏風の下張りとなり、家の建て替えと共に消失してしまっただろう。生活文化も伝承されずに、柿の渋の利用方法などは初めて耳にしたことです。また、捏ね鉢として松代焼きのかぶと鉢を使ったことなどお聞きした。何故、鉢を被ればヘルメットの代わりになったと言われる。一升徳利や生活雑器、家具など、生活の変化は著しくて、何うお話の内容は耳新しい楽しいものです。代々伝承されてきた生活文化が、今、途絶えてしまっていないのだろうか？ 惜しまれてならない想いで柳橋さんを辞してまいりました。

玄関へ入ってまず目を惹く花器、御息の数多い作品の中の数点が趣深い。

歴史、郷土史に詳しくいらつしやる柳沢さんに、新張の地名は開墾地に由来し、先人達の居住したお宮の辺りの、小字、古屋敷が甫場整備で失われることを惜しみ、せめて木を残すよう提言されたことを伺った。湯ノ丸はじめ、周辺の山々を愛し植物や自然の保護に、深い関心を寄せておられます。古屋敷跡地に大きな木を一本残して、そこに先人達の足跡を残すことは、大きな文化活動でしょう。現在社会の方向性の合理性と、カルチャーは文化の訳の他、飾りの意味もあり、文化活動と合理性は仲々、相容れないものであると、本質を衝くお話である。土地の生産性、合理性を追求する余り、自然の摂理を無視することのないような整備を望まれていることが、私の胸に強く刻まれている。

柳沢さんの庭には、珍しい紫色のエニシダや、葉草の仙人草があり、知人や教え子にたくさん分けて差し上げているとの事。

お茶をいただいたお湯呑や、家中に日常使う生活用品として、御息の作陶された品があり、父としても文化というものの深い理解者でおられる柳沢さんのお姿でした。



新張の柳沢 博さん

この人を訪ねて

井高の白石 故さん



この九月の誕生日で、八十七才になられた白石さん。随喜他善(ずいきたぜん)一人の喜びをもって我が喜びとなし人の悲しみをもって我が悲しみとなすを信条とされ、若き頃、上田市田町の浄念寺さんで、乳幼児検診のはしりとなるボランティアや、幼児の運動できる広場を作るなど十年間、社会奉仕をされた。白石さんは五才でお母様を亡くされその悲しみが、先きの随喜他善の行い、ボランティアの心となっておられる。お年寄りの方々のための授産所も用意されたりした。

長野県信連ですとお仕事をされ、退職されてから、県の老人大学の一期生とされる。

現在の趣味は、俳句、川柳、短歌などであるが、町の俳句の会「石楠」で毎月、石井先生のご指導のもと、宿題三句、雑詠三句を作句されている。町の俳句会三つ合同で年一回の吟行もされるとか、毎月、出された句の中から、作者名を伏せたままで推薦句を決めて、一位の句を中央公民館のロビーへ掲げているので、お目に止まった方もいるでしょう。

秋日和のひととき、お伺いした白石さんのお宅で、終始にこやかに相槌を打っていらしたお嫁さんの清子さん。温かな家庭などと、とても印象に残りました。

自然の木立ちの景観をそのまま生かして建てられた土屋さんのお宅。おしどり夫婦として、つとに有名だった奥様と、陶芸、俳句、木彫りなど数多い趣味を一緒に楽しみ、励んでいらつしやつたので、お宅には作品が生活に融け込んでいらつしやいました。「偕老同穴」そのままの生活を送って

おられた土屋さんの、奥様を亡くされたお気持ち、察するに余りあります。一人暮らしになられ、週二回、家庭奉仕員の方の手を借りていると伺いましたが、部屋のたまたまに、暮らしのセンスの良さが雰囲気となつています。ご自宅に作業所や窯をもたれ、七種類程の趣味を、その柔軟な着想と若人以上の若い精神で、一日の生活を上手に、屈託なく過ごしておられるご様子は、人生の達人なのではないでしょうか。家の周りに色とりどりに咲く花と菜園などの世話をされ、ご自身や奥様の教え子達との交流もいまだ続いておられます。全国各地から集まった教え子の方達と、別荘地のような庭でバーベキューをされたり、陶芸のお仲間と窯焼きの時、焼きソバをされたり、その和睦のお姿に心打たれ帰途につきました。



常田の土屋 忠雄さん

取材者 竹内 貞良

丸山 光男 赤堀 規子

神代文字碑を尋ねて

長岡 惇司



神代文字は庶民の間に表現されたとして発見された珍しいものと言われている。

豊科町教育委員会及び同町役場商工観光課の特別の取り計らいにより見学できる許可を貰いました。

当日は十時半頃豊科町役場の横川さんを訪ねた。

石碑は阿比留文字碑保護の為に小屋の中にあるので鍵を借用して「みなもとよしな駅」より二五〇メートル位のところに火の見櫓と堂があり、その前に道祖神碑がある。それは弘化四年建立で高さ二〇五センチ、幅一八〇センチもある。おそらく大きさ日本一であろう。「道祖神」と彫られた石と、男女双体の道祖神石像が並んでいた。その隣には風化消滅を防ぐためにかけた屋根と、三方格子で表はガラス戸に覆われた文字石であった。

昭和五十年一月に学問上貴重な民族資料であるとの理由で町の文化財に指定され、保護されるようになった。

台風の影響か曇り空もとうとう雨になった。車の窓ガラスに幾筋かの銀線が斜めに走った。十月八日に峯墨会の平成二年度の研修旅行を、文字研究に権威ある小川瓦木先生ご夫妻と南安曇の豊科町へいった。神代文字のなかには日文（ひふみ）天名地鎮（あなち）阿比留（あひる）文字など三種類があるが、その中の阿比留文字碑は日本にただひとつしかないといわれているが、それを尋ねる機会を得た。

阿比留文字碑は、高さ五七センチ、基部の幅五〇センチ、厚さ二三センチある。文字は右から

ヤチマタヒコノカミ

ヤチマタヒメノカミ

クナトノカミ

と読むことができ三体の神を併祀したもので災禍の神が村へ入ってくるを防いでもらうためにお祀りしたものだといわれる。

この阿比留文字碑はいつごろの建立か、今のところ文書や記録が無いので不明である。

ただ、当初建立した場所から現在地に移した、と土地の人がいつている。このことは文字石へ「本村中」と彫りこんであることとわかる。

阿比留文字は薬研彫であるのに対して「本村中」の文字は浅い丸彫りであるからである。

いずれにしても両者の彫りこんだ時期がちがうことは確実のようです。

然し、冷静に批判するとこの神代文字は、

やや国粹的な立場による憶測に基づく想定によるものであって、学問的にはこの説は論外として扱われている面もある。

お知らせ

文化協会加入の各団体がそれぞれに勉強してきた一年間の成果を、町中央公民館において次の予定で発表します。町民の多くの皆さんが、ご来場くださいますようお願いしております。

◎教養講座発表会 二月二日（土）～三日（日）（AM 9～PM 5）

◎東部町美術会展覧会 二月二十日（水）～二十三日（土）（AM 9～PM 5）

◎民謡発表会 二月二十四日（日）（AM 10～PM 4）

◎人形発表会 三月二日（土）～三日（日）（AM 9～PM 5）

◎舞踊発表会 三月十日（日）（AM 10～PM 4）

編集を終えて

文化協会報「せせらぎ」七号を編むに当たり、今回、表紙のカラー化を試み、取材をさせていただき、多くの皆様に原稿をお寄せいただきました。ご協力をいただいた皆様方に心より御礼を申し上げます。

文化会館の完成を祝し、また、東部町の文化活動の発展に寄与することができればとの願いを込めてお届けいたします。

編集委員一同